



ドイツ・ユダヤの対話思想

—他者との共在の可能性—

教育学部児童教育学科 講師 田中 直美

キーワード

ドイツ・ユダヤ思想、他者との共在、対話思想、哲学対話、p4c

該当するSDGs

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT GOALS



1 研究内容

自分とは異なる考え方や意見をもつ他者とのように共に在ることができるかを、ドイツ・ユダヤ思想における「対話」概念を手がかりに、理論的・思想史的に研究しています。

かつて多くのユダヤ人を絶滅収容所へと送ったナチス親衛隊のアドルフ・アイヒマンの裁判を傍聴したハンナ・アーレントは、彼が予想された極悪非道とはほど遠く、思考を停止してみずからの仕事を淡々とこなした平凡な人物だったことを記しています。「悪の凡庸さ」という言葉で表わされたように、アイヒマンがユダヤ人を抹消しようとしたのはユダヤ人に憎悪を抱いていたからではなく、権威あるヒトラーを支持し、上役の命令に従ったからでした。このようなアイヒマンの人物像やユダヤ人「排除」の企ての背後にある様々な思想的・歴史的状況などをアーレントの著作から伺い知ることはできますが、それでもなお、なぜ同じ人間にあのような残虐行為が可能だったのかと問わずにはいられません。しかし「同じ人間」と言葉にすると、私たちはその「同じ人間」の中にある差異を見落としているようにも思います。

アーレントは「複数性」という言葉を用いながら、多様性つまり異なる意見や主張に不可欠の前提を理論的に追究していましたが、いかにしてこの「複数性」を私たちは担保することができるのでしょうか。

こうした問いを携え、最近ではアーレントと同じくドイツ・ユダヤ人であり、彼女よりも一世代程前に生きたフランク・ローゼンツヴァイクの思想を研究しています。彼は 20 世紀の対話思想の源流に位置づけられているだけでなく、自由ユダヤ学舎という学校で教育実践もおこなっていました。いかにしてユダヤ人とドイツ人が、あるいはユダヤ人同士が、ひいては人類が共に在ることができるのかを模索した彼の理論を思想史的に解明することを試んでいます。

いかに他者と共に在ることができるのかというこの大きな問いに対する応答を、ローゼンツヴァイクの思想を中心とした文献研究だけではなく、合意形成のための話し合いやディベートなどとは異なる哲学対話を学生と実践しながら、日々模索しています。理論と実践はそう簡単に結びつくものでもなく、安易に結びつけて良いものでもありませんが、同じ問いを共有するものとして、理論と実践の両方から探究しています。



2 連携可能性のある研究分野、又は、これまでの連携実績

これまでの連携実績

【企業・行政・各種学校の委員等の委嘱】

- ・都城市学校評議員
- ・都城社会教育委員会・公民館運営審議会委員

【講演会講師、研修会講師、公開講座講師の実績】

- ・対話理論と教育に関するシンポジウム登壇
- ・対話理論と実践に関する教員免許更新講習講師
- ・対話実践に関する公開講座講師

問合せ先 福山市立大学事務局総務課(地域連携センター)

TEL:084-999-1112 FAX:084-928-1248 MAIL:renkei@fcu.ac.jp